大崎町協力隊通信 vol.19

伊藤剛です。2024年10月31日（木）に竹林整備の学習会を開催しました。今回はどんなことを学んだか、そして大崎町にも竹の駅ができたらいいな、というお話です。大崎町のメンマを美味しく食べて竹林整備！

竹の資源循環モデル　竹の駅あきたかたに学ぶ
山海環　谷川裕之氏講演会

講師に竹林整備や竹炭づくりを専門とする谷川裕之さんを広島からお呼びして宮園地区の皆さんをはじめとする大崎町民の皆様と一緒に、「竹の駅あきたかた」についてのお話と竹林整備の基本を教えていただきました。竹の性質や生態、種類、作業の仕方など学びました。乱雑に倒れた竹林を「竹やぶ」といいますが、ここから「竹林」へ戻すにはどうするかなど実践的なお話でした。

講演した谷川裕之さんが竹林に向き合ったのは2014年広島土砂災害で、山が荒れていることに対して、何かできることはないかとはじめたボランティア活動でした。

竹林整備では効果が高いのは、食べる喜びもあるメンマづくりだと考え、純国産メンマプロジェクトを立ち上げました。純国産メンマサミット京都を開催し、全国のメンマづくり先進地の話を聞き、広島でもメンマを作ろうと、安芸高田市内の里山整備団体が複数結集して「竹の駅あきたかた」を設立しました。

竹の駅は道の駅のように建物があるわけではなく、「地元の竹を受け入れ集積する機能」、「メンマの材料となる幼竹を集める機能」があります。

講演会を聞いた人たちは竹のことがよく理解できたので、放置竹林から豊かな竹林に戻す方法が描けたように思います。竹林整備は手元にあるノコギリでできるのが利点です。山仕事に近いので危険性もあるという安全管理も意識できました。

講師の谷川裕之氏

試験的に竹の駅宮園（仮）をやってみよう
宮園の竹林を活用しよう

宮園集落では２年前から純国産メンマを作っていますが、竹の駅あきたかたの話を聞いたこともあり、竹の駅をやってみたいなという想いがあります。

いま作業をしている竹林以外にも宮園には竹林がたくさんあります。春にはこの竹林からメンマの材料になる幼竹がニョキニョキ出てくることでしょう。今年は宮園集落の中からこの幼竹をもっと広く集めようと計画を立てています。

幼竹の刈り取り方法は、1.5～ 2ｍの幼竹に育ったら、ノコギリ（又は鎌等）で地表から20cm以上で切ります。皮つきのまま持って来てもらう感じです。

幼竹をメンマにすることで竹林整備がはかどります。一緒に参加してみたい方がいらっしゃればお問い合わせください。

幼竹はこのサイズです

【お問い合わせ】 大崎町 農林振興課 林務水産係　担当：美坐、西野　☎476-1111（平日8：30～17：15まで）